

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1193200183		
法人名	社会福祉法人 晃樹会		
事業所名	らんざん苑ひだまりの丘グループホーム		
所在地	埼玉県比企郡嵐山町大字平澤309		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	平成28年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvoCd=1193200183-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvoCd=1193200183-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成27年12月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ゆるやかな傾斜地の高台に立地し、自然に恵まれた環境の中で皆様は生活をされています。2階建ての建物で、1階が小規模型のデイサービス事業者(定員10名)、2階が、認知症対応型生活介護の事業所となっております。エレベーターはなく、階段のみの移動手段となります。外出時等は、階段の昇降するため、下肢筋力が自然に鍛えられています。当施設が特に力を入れているのは、月1回の外食会、年1回日帰り旅行(イチゴ狩り等)、医療との連携、季節感を体で感じていただくためのドライブなど入居されている方が、日々楽しく過ごしていただけるよう企画しております。また、職員とともに、感染予防研修や、事故防止研修、防災訓練等にも積極的に参加しております。また、おやつ作り等では、一緒にキッチンに入り、楽しくパンや、ゼリーを作り、みんなでおやつに召し上がっていただいております。同法人に特養を運営しているため、当施設での生活ができなくても入所へ移行できるため、安心して暮らすことができます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者が「認知症介護実践リーダー研修」に参加したことをきっかけに、事業所独自の理念を作ろうと考えている。職員は各自の課題をあげて対応策話し合い、「皆一緒に」ではなく、利用者一人ひとりにやさしく心ある介護を意識するようになった。また、管理者は、職員が楽しく仕事ができることが、利用者が安心して生活できることにつながると考え、レクリエーション、おやつ作り、フラワーアレンジメント等趣味や個性を活かして働けるよう役割分担をしている。そして、職員皆からの意見、提案を受け入れてサービスに活かす工夫として、会議の前に議題を知らせて事前に意見を提出してもらったり、立って利用者の見守りをしながら行う短時間会議を行っている。平成27年度は、家族も意見、要望を出しやすくなるように、家族懇談会の時に家族だけで話をする時間を作った。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎朝、理念を声に出して言うことにより、常に意識し、共有することで実践につなげている。	現在は法人の理念を目標としている。管理者と職員は理念の意味を話し合い、事業所独自の理念も必要だと考えている。「皆一緒」ではなく、協力して一人ひとりをみていく意識が高まった。	職員皆で事業所独自の理念を作成することで、利用者一人ひとりに対するサービスの質が更に向上することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練や夏祭りには、地域の回覧板等に掲載していただき参加をつのっております。また、地域の、ショッピングやお食事処での外食会を実施することで、地域の方との交流を深めております。	「カゴの中の鳥」にならないよう、地域の人々とのふれあいを大切にしたいと考えている。近くのお店で買い物や外食をしたり、階下のデイサービス利用者とは行事以外でも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談等や見学は随時受け付けており、通所介護事業の利用者の方々との交流会も設けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状況報告と行事等の実施したことを報告し、併せて、写真等を見ていただきながら説明を致します。	開催日を行政担当者と地域包括支援センター職員両方の予定に合わせている為、計画的な実施は難しい状態である。会議では、行事写真や記録を提示しながら状況報告をしている。	計画的な開催を検討し、運営推進会議がサービスに活かされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の長寿生きがい課の方々に運営推進委員の委員になっていただき、現状報告や事業の取り組みを伝え、協力をお願いしております。	行政担当者とは直接窓口を訪問して話をするほか、介護保険制度に関する会議や運営推進会議等で事業所の取り組みを報告したり、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所が2階であり、階段からの転落の危険があるため、扉はしめておりますが、必要時は、開閉は自由にできます。鍵は使用していません。	身体拘束についての研修を実施し、禁止の対象となる具体的な行為や言葉、薬等での拘束について学んでいる。職員は、具体的な事例を取り上げてケースごとの対応方法を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待の外部研修に参加し、報告研修として内部研修を実施し、防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ該当者がおりませんが、必要時対応できるよう研修等参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、身元引受人の方に十分な説明を行い、疑問点等の確認も行き、納得の上で署名捺印をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との懇談会の機会を設け、要望や意見をいただき、参考にしながら、運営に反映させていただいております。	今年の家族懇談会では、遠慮せずに意見が出せるよう、家族のみの懇談時間を作った。家族代表を通じ、今までとは違った気づきを得ることができ、すぐに実際のサービスに反映させた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の要望や提案を参考にしながら改善すべき点等を検討しております。また、随時、必要なことは主任等を通し検討しながら、反映できるよう努力しております。	議題を会議の前に知らせ、職員皆が事前に意見を出すことにしている。管理者は、職員が会議に参加しやすく、意見を出しやすくなるよう考え、会議で決まったことはすぐに実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在のところ、常勤のみが夜勤のシフトに入っており、安心して業務ができるよう人事配置をしております。定期昇給、賞与、処遇改善等支給しております。年休は、ほぼ100%取得させております。クラブ活動や福利厚生助成金支給をすることにより働きがいを持っていただいております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者はもちろんOFFJTへの参加の推進と、キャリア形成促進助成金を活用したOJTへの参加をしていただくことにより、意欲の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加していただくことにより、多施設の職員との交流の機会をもつことにより、質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、家族と本人の面談を行い、要望や不安なことを聞きだし、受け止めることにより安心していただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、家族が困っていること、要望や不安なことをじっくりと伺い、受け止め、解消に努めていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人、その家族により、必要としていることは異なるので、よく話し合い、ケアプランを立てております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除をしたり、共同作品を仕上げたり、一緒におやつ作りをしたりしながら楽しく過ごしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に来苑していただき、一緒に食事やお茶を飲んでいただいたり、行事などには、一緒に参加していただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた方が自由に来苑され、一緒に話したり、一緒にお茶を飲んで楽しい時を過ごしております。身内の方の写真や昔の写真などの話を聞いたりもしております。	昔近所に住んでいた趣味の仲間や親戚等が顔を見に来てくれている。個別の外出支援として「家族に会いたい」と言う利用者と一緒に、家族に会いに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間の関係を大切にできるよう共通の趣味をもてるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所された家族との連絡を密にとっております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を伝えることができる方は、希望等を聞きながらケアプランとして検討している。意思疎通困難な方は、本人本位に検討している。	脇に座って一緒に作り物をしたり、歌ったりしながら把握することもある。困難な場合は、昔好きだったことを参考にし、本人が満足そうか、楽しそうか等利用者の行動、表情をよく見て検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実調により本人の生活環境等確認し、入所時、家族・本人からできるだけ詳しく聞いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に実調により本人の生活環境等確認し、入所時、家族・本人からできるだけ詳しく聞き、また、入居後の状態も併せて一人一人の状態情報を共有し把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護会議を開催し、課題やケアのありかたについて話し合い、家族が来苑時確認しながら現状に即した介護計画を作成しております。	介護会議では、3カ月ごとの見直し時期にあたる人及びその時に見直しが必要な人について話し合いをしている。随時問題が生じた時にも見直しを行い、常に現状に即した介護計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援記録に記入することを基本とし、個別に本人に日記をつけていただいたり、食事や服用の記録をしていただくことにより、本人の役割を持つことで自信を持っていただき職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人コースが異なり、多施設入所中の身内に面会に付き添うかた、気分転換に外出の頻度が高い方、体調管理の必要な方等既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・消防署・傾聴ボランティア・陶芸ボランティア・理容ボランティア・その他のボランティアの方々の協力を得ながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時、また、本人の希望時は、かかりつけ医の通院等に職員が付き添いをしております。また、医師との連携をとり、定期的な回診、必要時の往診をしていただくこともあります。	希望のかかりつけ医への受診は家族が行っている。希望により定期的な医師の回診を受けることができる。服薬、発熱時の対応等、医師の指示マニュアルがあり、必要に応じた受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が入居者の異変等看護職に伝え、看護職が、医師に上申し、指示をいただき必要に応じ受診や往診を受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院をはじめ、入院中も病院関係者と連絡をとりながら状況確認しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、階段昇降が不可能になった場合でも法人運営の特養への入所が可能であるため、安心して生活していただけるよう説明しております。町の長寿生きがい課の方等にもご理解をいただいております。	建物の構造上、生活には階段の上り下りが必要である。契約時に、階段昇降が難しくなった場合の選択肢の一つとして、同法人の介護老人福祉施設へ入所できることを説明している。顔見知りの職員が対応できることで家族に安心を与えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署のかたの協力で心肺蘇生法の講習を受けることにより、急変時の応急処置の訓練を受けております。また、急変時の対応の職員研修を実施し、定期的にAEDの使用方法の訓練も行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防の総合訓練を実施し、火災や地震体験をし、避難できる方法を身につけるとともに、地域の方にも回覧等で参加の呼びかけを行い協力体制を築いております。	年2回、避難訓練を行っている。平成27年度は、起震車での地震体験と、煙体験も行った。避難訓練実施の際は、事前に近所へ案内を回覧し、地域との協力体制を築けるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員へのプライバシーの保護の研修をとおり、入居者への声掛けや、話し方、対応には十分に配慮するよう心掛けております。	利用者のプライドや恥じらいに配慮した声かけや対応をしている。特に排泄に関することは、小声で話しかけ、周りの人に聞こえない様気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の入居者の方とのコミュニケーションの中でご本人の思いや希望を伺い自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、その日その日で入居者のかたの状態ややりたいことなどを聞きながら、希望に添って支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の方が、お持ちになる洋服を着用し、その方らしいおしゃれができるように支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に食事をとり、下膳は入居者の方々に行っていただきます。おやつ作りは一緒に作って一緒に食べて楽しいひと時を過ごしております。	調理は職員が行っている。おしぼりを片付けたら、下膳は利用者が自分で行っている。食事のお楽しみ企画として蕎麦打ち体験を行った。おやつは柏餅、ゼリー等季節にあったものを皆で手作りすることが多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が一人一人の栄養状態等管理し、食事形態や栄養バランスを確認しながら提供しております。また、水分量や食事摂取量を記録しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシを行っていただき、義肢使用の方は、外し、自分で洗浄できるかたは、自分でやっていただき、介助の必要な方については、一部お手伝いをしながら行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導と随時声掛けを行い一人一人の排泄パターンに合わせてできるだけ失敗しないよう、プライバシーを傷つけないよう自立支援しております。	個々の状態に合わせ、定時に声掛けをしたり、様子を見ながら声をかけている。トイレの扉にかけた「使用中」のカードを使用時に自分で裏返すことを習慣化し、トイレでの排泄継続を支援している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い、人により、必要時排便の促進を行い、水分の不足がちな方には、水分量の把握と水分補給の声掛けを行い、便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴週間の必要な方には、入浴日のある程度決め、衛生の保持ができるよう支援しております。いつでもよい方は、希望時に入浴していただいております。希望者は週3回程度は入浴されています。	ゆず湯、入浴剤等で気分を変えることもある。拒否のある利用者には無理強いをせず、曜日を変えたり、声掛けの工夫をしている。入浴しなかった人に、入浴の気持ち良さを感じてもらえるようになった事例がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な就寝時間は決めておりますが、起きていたい方、余暇活動を希望のかたは、自由に過ごしていただけます。また、不安なかたには、医師の指示を仰いで安心して眠れるよう配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の支持により薬の処方をしていただき、ご自分で管理できる方は、服薬チェックをしていただいております。月一回の回診にて症状の異変を確認していただきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の残存機能や生活歴を活かした作業や、趣味を楽しんでいただいております。また、主菜バイキングやデザートバイキングを実施したり、そば打ち大会を行い、打ったそばを召し上がっていただいたりしております。ショッピングや外食等にも参加していただき気分転換を図っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に外出でき、希望により、家族に会いにでかけることもあります。外出計画をし、希望者の参加をつのり、日帰り旅行等にも参加していただいております。	紅葉の葉っぱを拾いに出かけたり、畑に出かけたりの日常的な外出以外に、企画外出もしている。家族の参加も募ってイチゴ狩りに出かけたり、利用者の希望を受け入れ、家族に会いに行く個別の外出支援も行った。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要最低限度の金品を預かる際は、預かり書をわたし、ご本人の必要な物、ご自分の買いたいもの等に使っていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に家族への電話やお手紙などやりとりができるよう配慮しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付け等で環境を変え、季節感を感じていただいたり、行事などでも工夫しています。冷暖房を各共用空間に設置し、必要に応じて適度な温度設定をしております。	リビングの机の位置や席は、利用者の相性を考慮して決めている。高台にある為、見晴らしがよく、大きな窓からは四季折々の景色の変化を感じることができる。利用者と職員と一緒に雑巾がけ、モップかけをして一日が始まる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ではありますが、1人になりたいときは、居室で自由に過ごされたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所を工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご自分の好みに合わせて環境を整えていただきます。チェストや置物等本人が居心地の良く過ごせるよう工夫しております。	安心できる空間となるよう好みのものや仏壇等を持ち込みしている。ベッドの向きは、利用者の身体能力に合わせて降りやすい向きに設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やチェストのまわりを清掃していただいたり机の上を拭いていただいたりおしぼりをまいていただいたり自立した生活が送れるように工夫しております。		